

黒岩横穴墓群

吉見百穴より規模が上か

前方の斜面に横穴墓が点在している





すぐ近くにある原伏見稲荷社の鳥居



史跡 黒岩横穴群

この横穴群は吉見百穴と共に世人に古くから親しまれて来た遺跡であります。

学問的に注目され始めたのは明治十年に明治の新政府から招かれて来たアメリカ人工ドワード・エス・モールズが東京の大森貝塚を発掘し科学的に調査、検討が行なわれた頃からで、当時、たまたまこの地方で聞こえた郷土史家の根岸武香先生（大里郡大里村）もこれにヒントを得て、横穴を発掘し謎を解こうと考えられ土地の人々の協力によって早速実行されました。

発掘は意外に成功し十六個新しい横穴が掘り出され出土したものは人骨、土器、金属器、玉類等々言い伝えられています。それ以来ここは十六穴と土地の人たちから呼ばれるようになりました。発掘調査の終わった明治十一年東京日々新聞（現在の毎日新聞）へ発表した。

黒岩村穴居の記には住居であると説明されておりましたが、大正末期になり日本の考古学が急速に発達し住居説が完全にくつがえされて、古墳時代後期につくられた墓穴であると断定されるに至りました。

*横穴の構造

横穴は普通の古墳の内部と同じように羨道と玄室と呼ばれている部分からなりたっています。入口からとおる細長い道路が羨道で奥の広い部屋が玄室です。羨道から玄室に入る所の少しくぼんだ部分を羨門と呼んでおります。

玄室には亡くなった人の死体を葬ったのです。穴によって玄室にベッドのような高い床がついている。これは棺台といって死体を入れた棺をのせておいたものです。

昭和六十二年八月一日

吉見町教育委員会
埼玉県教育委員会

原伏見稲荷社へ寄ってみる



原伏見稲荷社入口とある



途中、「史蹟 黒岩横穴群」とある標柱



原伏見稻荷社の社殿が見える





原伏見稲荷社社殿





元に戻ってよいよ横穴墓群へ向かう









黒岩横穴墓群

黒岩横穴墓群は明治十年、根岸武香をはじめ地方の有志によって発掘され、十六基の横穴が見つかったので通称十六穴とよばれた。

明治十一年、オーストリア公使ヘンリー・シーボルトが、明治十二年には大森貝塚の発見者として有名なエドワード・モースが視察に来ている。

横穴墓群は、百穴谷、首切り谷、地獄谷、茶臼谷、神代谷の五ヶ所に分布しており、この一帯の斜面には未発掘の横穴が多数埋没していて、その総数は、五百基以上と推定され、国指定史跡である「吉見百穴」よりも、はるかに大規模できわめて良好に保存されていると考えられる。

平成十年三月



吉見町・埼玉県

HIKI





黒岩横穴墓群

黒岩横穴墓群は明治十年、根岸武香をはじめ地方の有志によって発掘され、十六基の横穴が見つかったので通称十六穴とよばれた。

明治十一年、オーストリア公使ヘンリー・シーボルトが、明治十二年には大森貝塚の発見者として有名なエドワード・モースが視察に来ている。

横穴墓群は、百穴谷、首切り谷、地獄谷、茶臼谷、神代谷の五ヶ所に分布しており、この一帯の斜面には未発掘の横穴が多数埋没している、その総数は、五百基以上と推定され、国指定史跡である「吉見百穴」よりも、はるかに大規模できわめて良好に保存されていると考えられる。

平成十年三月



吉見町・埼玉県















この左斜面に点在している







以前来た八丁湖







参考ホームページ

<http://sgkohun.world.coocan.jp/SAITAMA/yosimi/kuroiwa.html>